

由来 加賀友禪花嫁のれん 「吉祥拾扇屏風圖」

＊朱鷺色の地に、この佳き日を寿ぐ金屏風が面を広げ、八輪の大きな八重桜が欣舞する様子です。

向かつて左の面から――

一、蘭が花開き北陸の春本番を告げます。新婦のお母様が丹精する蘭を写生致しました。

二と三《春の場》新婦の御祖父様が造園された清水邸の庭を忠実に描きました。春から新緑へ向かう時期、

遠く大師山までを借景に清らかな水には十三尾の鯉たちがその美鱗で楽しませてくれます。

四、白蓮が夏の日差しを連れてきます。

五、《夏の場》新婦のお父様が設計された勝山駅舎と車庫。新婦・華子様の誕生花・透かし百合と

蒼く伸びる竹、そして入道雲が夏の盛りに輝きます。

六、菊が重陽に匂い立ち、収穫と抒情の秋の始まりを知らせます。

七、《秋の場》新郎のお母様の故郷・能登に因み、アテの木・桐・タブノキそして松林の図。等伯を偲ぶ

筆致で表現致しました。

八、梅が紅白に咲き、冬とその次に来たる来春の訪れに慶びます。

九、《冬の場》新郎のお父様の出身地・静岡県側から見た初春に冠雪する富士と富士桜。新郎・和広様の

誕生花である黄色い連翹の下、越前海岸の水仙も春霞にその白顔が春を待ち侘びる様子です。

拾、――そして、再び蘭が次の春を出迎え、永久に繰り返す四季を表します。

◎右記―春の蘭、夏の蓮、秋の菊、冬の梅の四花は四季を意味し、その様子から「四愛」と

呼ばれる大変縁起の良い組み合わせとなります。

◎庭の奥に一際、可憐に咲く清水家の八重桜も来春に向けて花弁を重ね大きく成長するのです。

◎左下隅の風見鶏が季節の出発点とお二人の進む方向を指し示します。

風見鶏にはお二人のイニシャルの上で両家のワシちゃんたちがご挨拶し、和広様はご愛用のリットマンの聴診器で華子様のだんな声も聞き逃しません。

＊人も屏風も曲がらなければ立ちません。時には他人に合わせながら素敵なご家庭を築いていかれますこと、ご両家皆様方の来永くのご多幸をお祈り申し上げ、ここに由来を記します。

平成二十六年長月吉日

きもの処 凜屋 謹納